

「貧困と非行」の再生産に関する考察

- A 少年院の事例を通して -

広島国際大学 下西さや子 (会員番号 4922)

キーワード：貧困 非行 再非行

1. 研究目的

貧困と犯罪の関係は、欧米を中心に膨大な研究が蓄積されている。日本においても、「下層社会」と犯罪を直接的に結び付ける研究が戦前・戦後、続けられてきた。しかし、高度経済成長期以降、貧困への社会的関心の低下とともに貧困と犯罪・非行を関連づける研究は減少し、代わって「豊かな社会における病理」が論じられるようになった。とりわけ、神戸児童殺傷事件、佐世保の小学生による同級生殺傷事件など、経済的には普通家庭の年少少年による衝撃的な事件が続いた 1997 年以降は、「犯罪・非行の低年齢化・凶悪化」と「子どもの規範意識の低下や家庭の養育力不足」が焦点化され、厳罰を科すことで、非行を抑止しようという動きが、少年法改正を突破口として急速に進行している。しかし、いずれの統計調査からも、少年非行の低年齢化・凶悪化を裏付ける結果は出ていない。

1990 年代後半、ワーキングプアやホームレス問題を通して、貧困に社会的関心が再び集まるようになったが、少年非行領域においては、「少年非行の低年齢化・凶悪化」を前提に、少年自身や家庭の固有の問題として論じられる傾向が依然として根強い。しかし、非行を行った少年の背後には、貧困を基底とした複合的生活問題が横たわっており、解決に向かうことのないまま、新たな危機の累積によって、再非行に至るケースも少なくない。

本発表では、非行少年の立ち直りに必要な援助の方向性を、少年を取り巻く生活実態に即して提示してみたい。

2. 研究の視点および方法

- 1) A 少年院の在院生の生活実態を把握するため、年次統計資料を基に分析を行った。
- 2) 全国レベルの傾向を調べるため、全国の少年院での年次統計資料を基に分析を行った。
- 3) 成育家庭が貧困家庭で保護観察後も再非行を行った事例を抽出し、貧困との関連を分析した。

3. 倫理的配慮

いくつかの事例を融合させ、本人の特定につながるエピソードも割愛した。

4. 研究結果

- 1) 事例：発表時に提示する。
- 2) 法務省の「少年院生の家庭の生活程度別構成比」調査は、貧困の定義が曖昧な世帯収入のみの分類であり、世帯人員や家族構成も考慮されていない点で不十分といえるが、それでも、貧困世帯が3人に1人の割合を占め、2000年以降、さらに増加している。
- 3) DV法の施行された2000年以降、DVを理由とした離婚が一般的に急増しているが、A少年院においても、2002年～2008年に、母子世帯が約2倍に増加(全国の少年院統計では、1.4倍の増加)している。母子世帯の貧困率の高さを考えれば、少年院生における貧困世帯の増加の背景には、母子世帯の増加が反映していると考えられる。
- 4) DVによる母子世帯は、離婚が困難であることから、児童扶養手当の受給もできず、一層貧困状態に置かれることになる。ダブルワークによって子どもの生活時間に沿った養育行動が取りにくい上、DVの後遺症としてアルコールや薬物、異性などへの依存があれば親子関係は悪化し、母親の不在中、家庭が不良交友のたまり場になったり、少年の家出のきっかけになっていく。家出は不登校に連動し、学校外での不良行為によって、少年が司法機関に係属すると、学校との関係が疎遠になるだけでなく、地域から非難の目を向けられ、親も子どもも孤立状態になる。被害弁償が発生した場合、親はさらに精神的にも経済的にも追い詰められることになる。
- 5) 仮退院後の進路は、学力的にも経済的にも高校進学が困難であることから、就労する少年が多い。これまで立ち直りのきっかけとなってきた就労だが、近年、非行少年の受け入れ先であった土建関係の雇用が激減していること、就職できても雇用が一層不安定になっていることから、高年齢になっても暴走族などの不良集団から離脱できず、再非行に至るケースが増加している。
- 6) 少年非行は、「子どもの規範意識の低下や家庭の養育力不足」に原因が求められているが、非行の背後には、複合的な生活問題が絡み合っている。また、伝統的な犯罪学の研究では、貧困と犯罪・非行がセットで語られてきたが、貧困が直線的に非行を惹起するのではなく、そこにはさまざまな媒介変数が存在する。
- 7) 少年だけでなく、親もSOSを求めていると捉え、親子関係の修復も含めて介入していく必要がある。復学する場合は学校への橋渡し、就労する場合は職場の理解が得られるよう働きかけが必要となる。地域に被害者がいれば、保護司と連携し、関係修復に向けてのサポートが望まれる。これらの多元的な働きかけを実践するためには、ソーシャルワーカーを中心としたケース毎の組織横断的なネットワーク形成が不可欠であろう。